

フチマルオオベソマイマイ *Aegista tumida* (Gude)

【選定理由】

愛知県下では、渥美半島に分布域が限定され、さらに半島中央～東部地域のみで生息する稀少種である。愛知県の個体群は本種の東限分布個体群でもあるので、生物地理学的にも貴重である。全国的にも絶滅が危惧される種であり、愛知県下の個体群も近年、個体数が減少傾向にある。近年の温暖化による夏季の高温の影響も考えられるが、田原市白谷の石灰岩地では乾燥化が著しく、殆ど確認出来ない状況にある。近年の異常気象が本種の生息環境に及ぼす影響は大きいと考えられ、将来的に絶滅の危険性を考慮すべき種と判断される。

【形態】

殻長 8.0～9.8 mm、殻径 12.5～14.2 mm 程度の小形種。円盤状で螺塔は低く、平らに近い形状～低円錐状である。臍孔は殻径の1/3程度の幅があり、明瞭で深い。成貝の殻口は唇縁が反曲し肥厚して、同属他種よりも遥かに厚く白い。殻表は淡黄褐色の殻皮に覆われるが、成貝では鱗片状の殻皮突起物は認められなくなる。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美半島の中央～東部地域のみで生息する。新城市の鳳来寺山周辺の分布記録は誤認記録であり、新城市(旧鳳来町)には分布しない(矢野・早瀬, 2014)。

【世界および国内の分布】

日本固有種。紀伊半島に広く分布し(財団法人 自然環境研究センター, 2010)、愛知県の生息地が分布域東限となる。

【生息地の環境／生態的特性】

田原市白谷は石灰岩地であるが、それ以外は、常緑樹などの自然林環境である。林床に生息する地上性種であり、落葉堆積下の保湿性のある土壌の間に確認される。食性については植物食で、分解の進んだ落葉などを食べて生活していると推測される。同時に幼貝と成貝が確認されるので、成貝までに複数年を有すると推測される。

【現在の生息状況／減少の要因】

田原市白谷の石灰岩地では以前は多くの個体が確認されたが、近年は、個体数が減少傾向にある。近年の温暖化による夏季の高温の影響と考えられるが、田原市白谷の石灰岩地では林床の乾燥化が著しい。近年の異常気象が本種の生息環境に及ぼす影響は大きいと考えられる。

【保全上の留意点】

現在、本種の生息が確認される地域の自然環境を維持することが重要である。本種の生息する、限られた環境を開発しないことが最も重要である。林床の乾燥化が進行しないように生息地周辺の樹木の伐採を行わないことが肝要である。

【特記事項】

鳳来寺山では、紀伊半島に分布するやや大形となる亜種のキイオオベソマイマイの記録が存在したが、検証の結果、コオベソマイマイ(大形個体群)やカドコオベソマイマイの誤認記録と判明し(矢野・早瀬, 2014)、新城市の鳳来寺山周辺の本種の分布記録は誤りである。愛知県の本種は、東限分布個体群として重要であり、保護する必要がある。

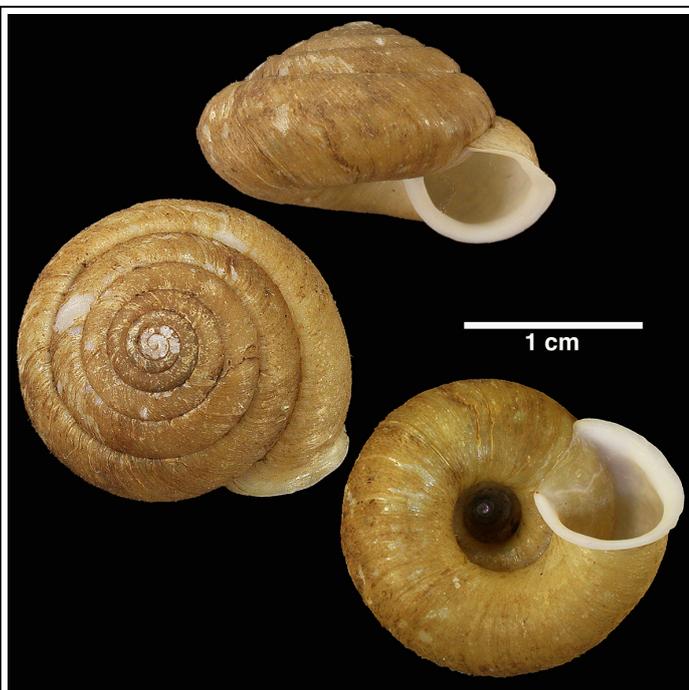
【引用文献】

矢野重文・早瀬善正, 2014. 鳳来寺山のオオベソマイマイ属について, かきつばた, (39): 28-30.
財団法人 自然環境研究センター, 2010. フチマルオオベソマイマイ, p.967. in: 自然環境保全基礎調査 日本の動物分布図集, 1070 pp. 環境省自然保護局 生物多様性センター, 富士吉田.

【関連文献】

Hirano, T., Kameda, Y., Kimura, K. & Chiba, S., 2014. Substantial incongruence among the morphology, taxonomy, and molecular phylogeny of the land snails *Aegista*, *Landouria*, *Trishoplita*, and *Pseudobuliminus* (Pulmonata: Bradybaenidae) occurring in East Asia. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 70: 171-181.
環境省自然環境局野生生物課少種保全推進室(編), 2014. レッドデータブック 2014 - 日本の絶滅のおそれのある野生生物 - 6 貝類, 口絵 8 + xliii + 455pp. ぎょうせい, 東京.

(早瀬善正)



田原市和地町, 1992年9月22日, 木村昭一採集